

- 問1 古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である | 2. 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された | 3. 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた | 4. 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
- 問2 4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何とといいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教公伝など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。（2020年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|------|--------|
| 1. 新羅 | 2. 百済 | 3. 魏 | 4. 高句麗 |
|-------|-------|------|--------|
- 問3 4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。（2026年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 弥生人 | 2. 防人 | 3. 縄文人 | 4. 渡来人 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問4 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。（2019年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため | 2. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため | 3. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため | 4. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため |
|--|---|--|--|
- 問5 巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|------|------|------|
| 1. 中国の南朝 | 2. 漢 | 3. 隋 | 4. 唐 |
|----------|------|------|------|
- 問6 古墳時代、朝鮮半島から日本列島に移り住んだ人々によって、新たな土器の製作技術が伝えられました。専用の窯（かま）を用いて高温で焼成されることで、それまでの土器に比べて非常に硬く、色が灰色をしていることが特徴の土器を何と呼びますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 土師器 | 2. 弥生土器 | 3. 縄文土器 | 4. 須恵器 |
|--------|---------|---------|--------|
- 問7 5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。（2026年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|----------|-------|-------|
| 1. 渡来人 | 2. 朝鮮通信使 | 3. 倭寇 | 4. 防人 |
|--------|----------|-------|-------|
- 問8 埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。 | 2. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。 | 3. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。 | 4. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。 |
|--|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
- 問9 滋賀県の子保山古墳群のように、この時期に築造された前方後円墳などの古墳文化は、当時の東アジア情勢と深く関わっています。4世紀末から5世紀にかけての、日本（倭）と朝鮮半島諸国との関係についての説明として正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|--|
| 1. 当時の日本は聖徳太子を中心に、隋に対して「日出づる処の天子」で陪る国書を送ることに専念し、半島情勢には介入しなかった | 2. 日本は高句麗と連合して百済を攻め、その見返りとして仏教の公伝を受けた | 3. 日本は新羅と強固な同盟を結び、高句麗を滅ぼして朝鮮半島北部に領土を広げた | 4. 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている |
|---|---------------------------------------|---|--|
- 問10 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。 | 2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。 | 3. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。 | 4. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。 |
|--|---|---|--|
- 問11 古墳時代の大和政権において、朝鮮半島や中国から渡来した人々（渡来人）が果たした役割や、彼らがもたらした文化的な影響について述べた文として正しいものはどれですか。（2024年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 銅鐸や銅剣などの青銅器を用いた祭祀を広め、巨大な前方後円墳を築いた | 2. 稲作を初めて日本に伝え、各地に高床倉庫を持つ集落を形成させた | 3. 狩猟や採集に代わる新しい生活様式として、磨製石器の製作技術を広めた | 4. 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた |
|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
- 問12 5世紀後半の日本列島において、大和政権の支配力が関東地方から九州地方にまで広く及んでいたことを示す歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。 | 2. 白村江の戦いでの敗北を機に、関東から九州にかけて山城や防人が配置され、軍事的な中央集権化が進んだ。 | 3. 聖徳太子が十七条の憲法を制定し、地方の豪族に対して大王への忠誠を誓わせる制度が全国に普及した。 | 4. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏から贈られた親魏倭王の称号を、地方の有力豪族に分け与えて統治した。 |
|--|--|--|---|
- 問13 古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 土師器 | 2. 弥生土器 | 3. 縄文土器 | 4. 須恵器 |
|--------|---------|---------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である	前方後円墳は3世紀後半から造られ始め、大和政権（ヤマト王権）の拡大とともに全国へ普及しました。大阪府にある大山古墳（伝・仁徳天皇陵）のように世界最大級の規模を持つものもあり、これは当時の王の権力の強大さを物語っています。
問2	答え 2 百済	朝鮮半島の南西部に位置した百済は、半島の主導権争いの中で大和政権と友好関係を深めました。この交流を通じて、漢字、儒教、仏教といった高度な大陸文化が日本に導入され、日本の古代国家の形成に大きな影響を与えました。
問3	答え 4 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問4	答え 4 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問5	答え 1 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讃・珍・済・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問6	答え 4 須恵器	古墳時代、朝鮮半島から移住した渡来人によって、穴窯（あながま）を用いた最新の作陶技術がもたらされました。従来土師器（はじき）が野焼きで焼かれる赤褐色の土器であったのに対し、須恵器は1000度以上の高温で焼成されるため、実用性が高い硬質な土器として普及しました。
問7	答え 1 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問8	答え 1 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問9	答え 4 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている	当時の日本（倭）は、鉄資源の確保や先進文化の導入を求めて朝鮮半島南部への進出を図りました。高句麗にある好太王碑には、南下政策を進める高句麗と、百済や加羅を支援して戦った倭の軍勢についての記録が残されており、当時の激しい抗争の様子を裏付けています。
問10	答え 3 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問11	答え 4 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた	朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ渡来人は、当時の先進的な知識を持っていたため、大和政権において外交文書の作成や財政の記録・管理といった重要な実務を担いました。彼らを通じて、6世紀の百済からの仏教伝来に代表されるような、大陸の新しい学問、宗教、技術が日本に定着し、国家の仕組みが整えられていきました。
問12	答え 1 埼玉県稲荷山古墳と熊本県江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。	埼玉県の稲荷山古墳で出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王（ワカタケルオオキミ）」という文字が刻まれていました。同様の銘文を持つ鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも見つかることから、5世紀後半には近畿地方の大和政権が、関東から九州に至るまでの広い範囲を勢力下に置いていたことが実証されています。
問13	答え 4 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。